

ウェブ社会のゆくえ——〈多孔化〉した現実のなかで【目次】

第一部 現実空間の多孔化

第一章 ウェブが現実を侵食する 21

- 1 「情報空間」が現実を変える 21
情報によって変わる現実の見方 情報空間とは何か 空間の意味を生み出す鍵
コミュニケーションが作る意味の空間 情報空間の概念的な整理
- 2 ソーシャルメディアが個人情報を買叩く 38
社会現象を複眼的に見る 経済的要因が後押しするスマートフォン
の普及 新たな広告媒体として 個人情報を支払わされる
ソーシャルメディア スマートフォンとソーシャルメディアを
推す政治的理由
- 3 現実と連動し、現実を侵食するウェブ 53
データが現実になる 現実を資源化するウェブ

第二章 ソーシャルメディアが「私」を作る 63

- 1 ソーシャルメディアから抜け出せない人たち 63
「ソーシャルメディア依存」をめぐる 携帯電話依存の研究から
見えてくるもの 「寂しいから」ではなく「一人だと思われ
るのが怖い」 空気を読む圧力はなぜ生じるか
「見なければいい」では解決しない
- 2 「ソーシャル疲れ」の社会学 79
もうソーシャルメディアなんて見たくない 「空気を
読む圧力」だけが原因なのか 社会的自己論からの分析
「思った通りに見て欲しい」 ソーシャルメディアで
現実空間はどうなる

第三章 ウェブ社会での親密性 101

- 1 役割空間の混乱 101
デート時の携帯電話マナー 役割は「期待」から生まれる
期待に逆らう自由 機能分化した複雑な社会 役割葛藤と
役割空間 ソーシャルメディアと役割空間
- 2 一緒にいることの孤独 116
「離れていても一緒」なのか 親密であるとは
どういうことか 自己開示とプライバシー 監視こそが
プライバシーの確保につながる？

3 親密性と近接性が無関連化する

128

「自己情報コントロール権」と親密性 「親密な相手」を選択する
人でなくとも感じられる親密さ 現実空間の意味をめぐる争いが顕在化する

第二部 ウェブ時代の共同性

第四章 多孔化現実の政治学

143

1 テレビ公共圏から多孔化現実へ

143

高級レストランでの料理撮影 ソーシャルメディアとコンサマトリー化
場所の特別さの喪失 テレビ公共圏が作る「大きな物語」
テレビに出ている人は他人ではない 電話のあるところが「私の場所」になる
多孔化社会の無限定性

2 多孔化現実を管理する権力

160

公共空間での通信機器の利用は制限されるべきか 監視社会論からの批判
携帯電話による相互監視と管理 自己情報コントロールのジレンマ

3 リスクの可視化による社会の分断

171

「ホットスポット」をめぐる 地図による可視化という権力
市場価値で分断される被災地 安全に関する情報を必要とするのは誰か
権力作用の批判から、新たな共同性へ

第五章

多孔化した社会をハッキングする

183

1 観光から聖地巡礼へ

183

多孔化による分断に対抗する手段 観光客の体験から見る観光地
アニメ聖地巡礼と観光地の創造 見られること、連帯、アイデンティティ

2 シビック・プライドと行政の役割

194

後期近代の共同性 共同性としてのシビック・プライド
なぜハコモノやゆるキャラではダメなのか 「ファスト風土」から地域性の継承へ

第六章

「悲劇の共同体」を超えて

211

1 喪失の体験と共同性の始原

211

人が入れ替わっても持続する共同性 共同性から共同体へ 喪失の体験が生む共同性
死者の抽象化と共同性の拡大 「悲劇の共同体」のジレンマ

2 儀礼の空間と現代における共同性

226

抽象化された死者を引き受ける空間 儀礼が可能にする記憶の継承
現代社会における構造的な忘却 一次の忘却と二次の忘却
どのようにして記憶を継承するか 個人の空間が共同性へと接続されるために

おわりに

247